

令和3年度第2回 香川県立図書館協議会

日 時：令和4年3月25日（金） 13:30～15:00

場 所：香川県立図書館 研修室

出席者：池田委員、石野委員、梅澤委員、岡委員、香川委員、清國委員、
山本委員

欠席者：川根委員、黒川委員、森山委員

傍聴者：なし

1. 開会
2. 館長挨拶
3. 議題

(1) 令和4年度予算・事業計画（案）について

- ・事務局より令和4年度予算・事業計画（案）について説明
- ・承認
- ・質疑、下記のとおり

委 員：4年度の事業計画で、8月頃に高校生の読み聞かせ講座がある。これは、高校生を対象に読み聞かせの仕方を指導するという講座とのことだが、3年度の参加人数は何人ぐらいか。

事務局：たくさんの応募があったが、27名に参加していただいた。

受け入れ側としては、受講者一人一人に指導、コメントさせていただき、講座の翌日は、4、5人のグループをつくり、児童資料コーナーで、おはなし会をボランティアの方がするように実演することから、どうしても人数制限があり、30名弱ぐらいにしている。

委 員：結構人気の講座だということは、読み聞かせに高校生の関心が高いことの現われか。

事務局：ボランティア活動というところに興味をもたれているのだと考える。

委 員：高校生の読み聞かせの講座について、理解の仕方としては、例えば高校でボランティア活動を推奨したり、あるいはキャリア教育であったり、進路指導で、例えば幼稚園教諭や、保育所の保育士を目指している子達の背中を押して応募させているのかなと思う。

一定の需要があつて、お断りしないといけないぐらいの応募があるということになると、香川県の図書館協議会を巻き込んで横の連携ができれば、地域ごとにそれを受け入れるだけの体制が整って、たくさんの要望に応えられると思われるが、

将来的にそのような展望はあるのか。

事務局：確かにおっしゃる通りで、高校生なのである程度の所からは来られるが、遠方となると、ちょっと厳しいところである。我々の方から出向いて行くという手はあるが、どこでするかとなるとそれにはどうしても近くの市町図書館のお力をお借りせざるを得ない。職員が少ない中でやっている市町の図書館に、それをお願いできるのかが今後の課題だと考えている。

委員：こども読書まつりに参加される子供さんたちが、どこから来られたかアンケートを採ったことはないのか。

事務局：こども読書まつりに関しては、行事の終わった後にアンケートは採っていないので、どこから来られているのかは把握していない。チラシは県内の全公共図書館に配付して、皆さんの目に触れるようにしている。

委員：行事をされるときに、参加者がどこからいらしたか、あらかた何々市からとか、ある程度の統計を取っていくことも、非常に後々の参考になると思う。

高校生の読み聞かせ講座については、私も地元市の方で図書館協議会に出ており、県立図書館がこのようなことをすることを委員会で紹介したところ、委員の間から、それはいいのでやりましょうという意見がでてきており、おっしゃったように、県が各図書館に出向いて講座開催するのはちょっと難しいかもしれないが、良いことは知らせてあげると、各図書館で出来るかなと思う。

(2) 令和3年度運営状況について

- ・令和3年度運営状況について事務局より説明
- ・承認
- ・質疑下記のとおり

委員：入館者数はどうやってカウントしているのか。男女はわかるのか。

事務局：図書館入り口の天井部分に設置した自動計数装置でカウントしているが、男女の別はわからない。

委員：資料15ページの障害者・高齢者サービスの資料の整備のところ、デージー資料や、大活字本の冊数があるが、これは県立図書館の規模からいうと多い方か否か。デージー資料数はこのくらいという決まりはないのか。

事務局：特に基準はない。

委員：今の図書館に対して、デージー資料が、多いとか、少ないとかということか。

事務局：特に比較をしたことは無いが、大活字本もデージー資料も、出版点数が多くないので、大活字本は、ほぼ買っている方だと思う。

委員：オンラインで研修をされたというご紹介があったが、非常に好評だったのか、やっぱり対面が良かったとか、そのあたりの反応はどうであったのか。

事務局 : 子どもと本を結ぶ基礎講座に関しては、講師が、当時、香川より早く新型コロナの感染が広がっていた広島の方で、こちらに来られるのを遠慮されたこともあり、視聴覚ホールで初めてオンライン開催したが、講義等に関しては遜色なく出来たと考えている。ただ、読書バリアフリーの研修会の方も初めてオンラインでやったが、実務担当者会等の意見交換等は、みんなの前で言うほどではないけれども、直接聞きたいというような情報交換ができなかったという感想があった。視覚器機類の道具などは、現物を見たかったというご意見をいただいたりしたので、一長一短はあったものの、おおむね好評であった。市町の方は職員が少ないので、自館で参加出来て、時間が短縮されたとかいうメリットはあったと考える。

委員 : アフターコロナをどうするかというところだが、オンラインの利便性の高いものは生かしつつも、いやいやそれだと先ほどの、余白や空白がないのでちょっとした交流ができない、というところはあるので、そんなところの見通し等を立てながら上手くやれば良いと思う。研修等の講師について、来ていただくには1日つぶれるのでなかなか難しくとも、1時間だけということになると協力していただだけやすくなったりするもので、割と全国的に著名な先生にオンラインだから登場していただいたりする。色々考えなくてはいけなくて、整理するのは難しいが、そんなことも考えていただければ、特に研修等では、情報を得るところについては質の高まりというところが期待できるし、予算も旅費がかからないので少し縮減されると思う。

事務局 : 全国の研修会に当館からも毎年参加しているが、オンラインだと今まで1人しか行けなかったのが、3人4人と参加できたりするというのがあるので、県内においても、これからもある程度オンラインも取り入れていきながらやっていくのが良いのではないかと考えている。

委員 : ご検討いただければと思う。

委員 : レファレンスサービスは、レファレンスカウンターがあって、そこにいつも司書がいらっしゃるという理解でよろしいか。

事務局 : レファレンスカウンターには、常に司書を配置している。

委員 : クイックリファレンスといって5分ぐらいで調べなければならないサービスがあるが、そういうのは難しいのか。クイックリファレンスの実績の数字も結構入っていたが。

事務局 : 書名や著者名がわかっている図書の所蔵調査のように、蔵書検索システムを用いて簡単に回答するクイックリファレンスが多くを占めるが、様々な資料を組み合わせる回答しなければならない調査の依頼も一定程度ある。

委員 : 今、新型コロナで定員をすごく制限されており、こども読書まつりにしても先着6名とかなので、すごく人気があるものは、もう回数をふやすしか方法が無いのかなあと思う。1回ではなくて、なるべく回数を増やしてしていただきたい。

委員：色々なコーナーを設けたり、行事をやっている一つの目的は、たくさんの人に来てもらって貸出し冊数を増やしていくことだと思う。

子育て支援コーナーなら、そのコーナーで何冊貸し出されたとか書かれている。

こども読書まつりがあるが、そこにコンサートが入っている。別にコンサートをしていけないと言っているわけではなく、それはいったい何が目的なのかと考えたとき、そういうことをすることで、図書館に来てもらうという趣旨なのだろうとは思いますが、何のためにやられているのか、もう少し整理した方がいいのではないかなと思う。

高松市立美術館では、玄関ホールが結構広いので、この間も香大の若い先生のオペラをやっていたし、かなり大々的な演劇をやったりもしている。そうなってくると、美術館に来てもらうためというのものもあるけれど、それ以上の、つまりそのスペースを何とか芸術に利用していくという風になっている。もう、美術館に来てもらうどころじゃない。

図書館もそういう考え方に立つのか立たないのか。もし、このスペースを図書館に来てもらうためというのものもあるけれども、もっと広く別の利用をしてもらうことで活気づけていくというのだったら、もっと他のことも出来るのかも知れないと思ってみたりする。

この間、テレビで岡山県立図書館の話があり、全国1貸出し冊数が多いということで、すごい工夫をしているというようなことが出ていた。面白いなあと思ったのは、福袋というのがあるが、それは要するに本を貸出すのだけれども、図書館の方でテーマごとに貸出しの本を入れていて、みんな一生懸命それを借りに来ている。それは、本当に貸出し冊数を増やすためにどうしたらよいか一生懸命考えているという流れで番組が編成されていた。

それで、香川県立図書館の行事を見てみると、申し訳ないが、何とかもっと貸出し冊数を増やしたいというような感じでもない。別にやっていることがいけないのではないが、これは何のためにやっているのか、その目的をもう少し明確にしていた方がいいのではないかなと思う。

図書館の目的が貸し出しにあるとすれば、単にコンサートで音楽を聞かせるだけではなくて、音楽についていろんな本があるという紹介はしないと。

委員：おはなし会コンサートで、本を読みながら音楽を入れるとか、本とコラボでしているところもある。本、図書館の機能を前面に出して、その中に音楽がちょっと入ってというやり方もあると思うので、今の意見は分かるような気がする。

事務局：私どものイベントは、基本的には図書館を利用していただくために、その導入としてそうしたイベントを活用していくという考えをしている。

委員：多分そういった目的を突き詰めていったら、同じことをやってももっと良くなるんじゃないかなという感じをうける。

事務局 : 出来るだけ、コンサートとか、展示とか、いろんな遊びとか、イベントでも本と親しめるように関連付けて、考えさせているのだが、それが十分かどうかというところはある。

音楽に関しては、本だけではなくてAV資料も貸出しているので、直接的にはそういった関連はあるが、ただそれだけではなくて、子どもであれば絵本とか、図書資料につながっていくような形をこれからも考えていきたい。

委員 : 目的を明確にするというのは大事なことだと思うので、目的を達成するための手段となるような内容でお願いできればと思う。

委員 : 当館ではブックデティクションが無いので、荷物を預けるロッカーがエントランスホールにあるが、ブックデティクションシステムを導入することによって不要となるロッカー等を撤去すれば、そこがずっと広がるので、県立図書館がやられているようなちょっとしたイベントのようなものを考えている。

その目的は、地域に開いた図書館として、みんなに寄って来てもらいたい、若者も、お年寄りも、利用されている方はもちろん、今利用されていない方にもお越しいただきたいということで、そういうことも考えていかなければという話しはこちらの方でもしている。

委員 : 今のお話の流れでいくと、極端な話、マルシェみたいなものを図書館でやるとすると違和感は拭えず、利益が出るようなことはちょっと出来ないとは思いますが、新しい客層というか、いろんな方法を工夫、検討しておられるのだ。

委員 : もう、本を貸出しするだけの施設ではなくて、賑わいづくりも検討しないといけない時期に入ってきていると考える。若者、特に大学生が寄ってくる、話の出来るスペースなども、まだちょっと先にはなるが考えている。

委員 : 私は、県の芸術祭の委員もやっているが、芸術祭の方でもホールで何かやるというのには見る人に限界があるので、街に出て行って何かやりましょうという風な流れもあって、実際できるだけそのようなことをやろうとしている。美術館や図書館のエントランスも使えるもなら使いたいという希望はある。

委員 : 何でもよいというわけではなく、条例で、用途というか、使っても良いことと、いけないことが決まっていると思う。

委員 : 参加人数をみるとそれぞれの行事、結構な人数が参加しており、内容がいいから、満足度が高いから来てくれるのだと思う。参加者はそれなりに満足してお帰りになって、多分次の行事にも行こうとか考えて、それが、ひいては図書館の事業に繋がっていくので、一つの流れを作るという意味ではいいと思う。

委員 : ただいま、行事の満足度について触れられたが、最近、アンケートで施設や行事を評価してもらう場合、「満足」、「やや満足」といった尺度で満足度を問うのではなく、10段階の尺度でどの程度他の人に薦められるかと問うのを、インターネットなどで見かける。0から6ではやや批判的、7、8では普通、9、10では積極的に

薦めることができる評価となる。他の人に是非行くべきだと積極的に薦められるものでなければ、その施設や行事の前途は厳しいと言わざるを得ない。新しい尺度を用いたアンケートなどにより、参加者の行事に対する評価を深く調査してみてもどうか。

(3) 図書館評価について

- ・事務局より図書館評価について説明
- ・承認
- ・質疑下記のとおり

①図書館評価について

委員：来館者満足度はB評価となっているが、「図書館利用に関するアンケート結果」の「当館のサービス満足度」を見ると、「満足」と「やや満足」の合計が88%で、無回答が6%ある。無回答はどうしようもなく、記述のあった意見の中には、実際には対応しかねるものもあるが、そのあたりをどう考えているのか。

事務局：満足度については、数値目標の90%を下回っているが、毎年度のアンケートで80%台後半を維持しており、図書館来館者を対象としたアンケートであることを考慮しても、満足度は高いと認識している。来館者満足度の数値目標として90%の設定が、果たして適切かということはあると思う。

委員：A評価になるためには90%以上を得なければならない。達成が無理ということであれば、評価指標を変えてはどうか。数値が低ければ上げるための対策を考えなければならないが、実際、対策を講じることが難しいものもあるのではないか。

委員：去年もB評価だったということで、数値目標の90%というのが妥当かどうかというところもあるが、無回答を分母に入れるのが正しいのか、入れなくていいのかというところで、もし、分母に入れなくていいということだったら無回答を除いた中で満足度をみればいいと思う。

それと、施設についての意見には改善の方策がないものもあり、図書館の利用に関するアンケートとして、施設に関する事柄を取り上げることが適切なのかという気がする。

委員：無回答について確認だが、無効回答ではなくて、他の項目は答えているが、その満足の項目のところだけ答えていない、無回答という理解でよろしいか。

事務局：そのとおり。

委員：それならば、統計上は分母に入れないといけない。無効回答だったら外せばいい。

事務局：他の項目も無回答が結構あるが、無回答が多い質問、少ない質問があり、当然なかなか答えるのが難しいものもあるが、サービスがどうですかということに、いいとも、悪いとも言わないという方は、ちょっと私どもに関心が薄いという感じはす

るので、そういうところを答えていただけるようにすることも要るのかなあという気はする。

委員：批判的な回答も、将来のためという考え方もできるので、10人中10人が満足というよりも、批判がある方が、今後運営を改善していく上では、大切なのではないかな。もっともその内容にもよるが。

委員：単なるクレームみたいなのは困るが、改善のためのご意見であればよい。

委員：貸出冊数の上限について、私は、じっくり本を読むというのであれば、10冊あれば十分ではないかと思う。10冊が少ないと言われると、何かを調べていて資料を通して読む必要がないというのなら分かるが、手当たり次第に借りて、乱暴に返されては本が傷む。本を大切に扱ってもらうためには10冊を、逆に5冊までに下げるべきではないかと思う。

事務局：子どもさんは絵本なんかをたくさん借りて帰られる。上限を上げると、貸出し冊数が増えるといった傾向はある。

委員：その代わり今度は借りる順番がなかなか回ってこないということになってくる。

事務局：そういった逆の不満もでてくる。

委員：数値で測られるものを評価するとなると、数値を上げることによって弊害につながる場所があつて、なかなか悩ましいところだ。

委員：いろんな施策で頑張っているのだから、その評価がBならBでもいいのではないかな。BだけどCに下がらないように頑張ってAに近いところにいるのならば。

委員：図書館ホームページのトップページ閲覧件数が伸び悩んでいるとのことであるが、トップページを経ずブックマークで蔵書検索に直接アクセスするとなると、打つ手がない。

そこで提案だが、NHKで実施しているように、研修やイベントの様子をアーカイブ化し、視聴できる対象者を動画共有サイトのように無制限とするのではなく限定して、ホームページで公開してはどうか。私自身の研修は、ビデオ撮影、録画され視聴できるような仕組みに変わってきている。どの程度視聴されているかは把握していないが、再生速度を倍にして視聴しているとか、聞きたいところを繰り返し聞いているといった声がある。これからそういったコンテンツを公開してはどうか。先ほど、委員さんからイベント開催の回数を増やしてはどうかとの提案があつたが、そういう方法もあろうし、記録したものをご覧いただくといった方法もある。まだ確信をもって言っているわけではないが、様々な方法を組み合わせ、トータルで伸ばすことを検討しないと、思うようにはアクセス数が上がらないだろう。こうした方策も、今後検討いただきたい。

②アンケート結果について

委員：「図書館利用に関するアンケート結果」の「図書館へのご意見」で、利用者マナ

一について、「子どもの声が気になるので注意してほしい」とあるが、どの程度で注意しているのか。注意するというのは難しいもので、職員のご苦労もあると思うのだが。

事務局：幼い子どもさんが、突発的に声を出すというのは十分考えられることから、連続的に大声を出している場合について注意するようにしている。

委員：児童書が豊富にある図書館に子どもを連れて行ってやりたいと思うお母さん方も多いはずだが、子どもの声が気になる利用者の方もおり、双方の折り合が難しい。図書館も対応に苦慮しているものと察する。

事務局：実際、子どもの声が気になるのご意見がある一方、子どもの声に対する図書館の対応が厳しすぎるとのご意見もある。

委員：子どもが他の利用者に迷惑をかけるかもしれないと思うあまり、子ども連れでは図書館に行きにくいというお母さん方の声をよく聞く。利用マナーとの兼ね合いが非常に難しいことは承知しているが、子どもを連れて図書館に来られるお母さん方の思いも推し量ってもらいたい。幼いころから図書館に親しむことは意義あることではある。これまでの図書館とは異なり、憩える場所を目指した図書館も数多くあるようだ。

事務局：これからも、様々な立場の利用者の方が、安心して図書館を利用できるよう、閲覧室の運営を行っていききたい。

委員：質問7「今後、もっと取り組んで欲しいこと」の回答で、図書や雑誌の充実が最も多い。この尋ね方では、何を増やしてほしいのか、何が不足していると思うのかがわからない。この意見を図書館運営の改善につなげるための取組みとして、どのようなことをお考えか。

事務局：この設問は、具体的に何かを改善するためというよりは、ご来館いただいている利用者の方が、何に最も関心を持っているかを問うものである。この結果は、結局のところ、様々なイベントの開催や、施設や設備の整備よりも、資料の充実のほうにより重要であるということを表しており、利用者は、資料費を削減してまで、施設や設備をよくしてもらいたいとは考えてはいないと私どもは受け止めている。

委員：利用者からの要望や意見は、図書館側が受け止めて図書館運営の改善に活かすだけでなく、教育委員会への運営状況の報告の資料としたり、予算を獲得する際の根拠とすることもあろう。このことから、利用者の要望や意見の十分な把握は重要だ。

委員：これまで設問を変えたことはないのか。先ほど議長が、アンケートで施設や行事を評価してもらった際の、新しい尋ね方を紹介されたが、確かに、最近、尋ね方を工夫したアンケートを見かける。毎年度実施しているアンケートの設問を変えるとすると、年度間の比較ができなくなる弊害もあるが、設問のあり方についてどのように考えるか。

事務局：「図書館利用に関するアンケート」には8つ設問があり、そのうち一つは、毎年度尋ねる内容を変えてきた。例えば、昨年度には、コロナ禍の中での図書館の利用動向を捉えるため、来館回数や一度に借りる冊数の増減などについてお尋ねした。

また、今年度は、今後の講座のあり方を考えるうえでの参考とするため、図書館で開催する講座についてお尋ねしたところである。

今後は、年度間の変化を捉えることを重視しつつ、他の都道府県立図書館で実施するアンケートの設問を参考にするなどして、設問のあり方を検討していきたい。先ほどの「図書館評価」の評価指標との一体的な見直しの必要性もあるのではないかと考えている。

委員：社会の要請によって変える設問と続ける設問とに、メリハリをつけていただいていることを承知した。

4. 閉会